

序文 年報発刊にあたってご挨拶

長崎大学第二内科教授 迎 寛

私が平成27年11月に第二内科に着任し、早くも1年が経ちました。今回は私が教授となり、2回目の第二内科年報になります。この1年間にいろいろなことがありましたが、やはり一番大きな出来事は昨年7月3日の早朝に長崎大学第二内科第5代教授で長崎大学名誉教授 原 耕平先生がご逝去されたことです。原先生を亡くしたことは、長崎大学第二内科の同門・医局員にとって大きな悲しみであります。今回の年報では、「原先生を偲んで」というコーナーを作らせていただいています。原先生に関係が深い約20人の先生方に追悼文をお願い致しました。ぜひ、同門の先生をはじめ、多くの方にこれらの追悼文を読んでいただき、原先生のお元気であった時をいろいろ思い出していただければと思っております。また、今年は第二内科で精霊流しを行う予定としております。ぜひ、同門の先生方におかれましては、お時間がありましたら、参加いただければ幸いです。

現在、第二内科は医学部改革のあと呼吸器内科、腎臓内科のグループとなっています。今年度は呼吸器内科に1名、腎臓内科4名の入局がありました。昨今、地方大学において入局者を増やすことはかなり困難となっておりますが、やはり、今の第二内科にとっても入局者を増やすことが地域医療への貢献の維持を含め、すべての面で一番重要な課題となっています。そのために、学生にいかにアピールできる教室になるかということ今年度はいろいろ模索してきました。回診時に学生が勉強になるように教員に隣に座ってもらい、必要な時に個々の学生に直接、説明をしてもらう試みを始め、学生が退屈しないような病棟実習を心がけています。これは教員や医員の先生方には負担でもありますが、とても学生に評判がよく、今回、5年生が6年生での高次臨床実習で第二内科を希望する学生が最も多かったという結果となって出てきているのではないかと思います。29年度の入局者も呼吸器内科5名、腎臓内科3名になり、何とかこの良い流れを続けていけるように同門の先生のお力をお借りしながら教員の先生方と努力を続けていきます。

現在、大学、特に地方の大学は厳しい環境となっており、医師数の確保、予算の削減等多くの難題を抱えておりますが、何とか魅力があり、楽しい医局を目指して頑張っていきたいと思っております。今後とも、同門の先生方にはご指導・ご鞭撻のほどをお願いするとともに、皆様のご健勝やご活躍を祈念しながら、今回の第二内科年報の序文とさせていただきます。